

令和6年度(2024年度)金沢大学法科大学院 入学試験問題

【A日程入試】法律専門科目試験

刑法 出題の意図

問題1

問題1は、刑法各論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、名誉に対する罪における「名誉」概念に関する基本的な理解を問うものである。判例・通説がどのような見解に立っており、それが条文上どのように導かれているかについての理解を確認する。(2)は、財産犯の保護法益に関する基本的な理解を問うものである。占有説(所持説)と本権説の対立の構図を前提に判例・多数説の見解を正しく理解しているかを確認する。

問題2

問題2は、刑法総論上の典型論点である偶然防衛および具体的事実の錯誤に関する事例問題である。前者は正当防衛の趣旨から、後者は特に意図しない複数の客体に対する法益侵害結果が生じた場合について、自らの立てた規範と事案の解決との間の論理的整合性が問われることになる。

詳述すると、正当防衛の成立要件として防衛の意思が必要かどうかについては学説上激しい対立があるところ、それは正当防衛の趣旨、ひいては違法性阻却の指導原理をどのように解するのか——あくまで優越的利益の確保に限局するか、それとも社会的相当性の要素を盛り込むか——の影響を受ける。このように、違法性阻却の根底にあるものを正しく理解しているかどうかをまずはこの問題で問うている。また、その解答に応じて、意図しない客体に対する法益侵害結果の検討の内容が変わってくる。このように、自らの立てた規範に基づく論理的展開の正しさを自らが意識して答案を作成できるかどうかについてもこの問題で問うことになる。